［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評 価 報 告 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	4092100025
法人名	㈱ take care TAKE
事業所名	グループホーム うすい
所在地	福岡県嘉麻市下臼井1082-66
	（電話）0948-62-2555 （FAX）0948-62-5666

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年9月5日	評価確定日	平成21年9月26日

【情報提供項目より】（平成 21 年 8月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人，非常勤 0 人，常勤換算 6.7 人	

（2）建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ～ 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	41,000 円		その他の経費（月額）	10,000 円
敷 金	無			
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円 ） �無		有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	一日当たり1,300円			

（4）利用者の概要（8月31日現在）

登録人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1		要介護2	2	
要介護3	5		要介護4		
要介護5			要支援2		
年齢	平均	83.8 歳	最低	77 歳	最高 95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	鎌田病院 桂川歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームうすいは、自然の緑あふれ、近隣にスーパーや医院が立地する恵まれた環境にある1ユニットのホームである。「利用者と介護従事者は17人の大家族」の理念の下、スーパーの開店セールに入居者と出かけるなど、日々楽しみながら生活を営んでいる。自宅に退去した元入居者の訪問を職員一同で「里帰り」と喜んだり、昨年末の餅つき大会では、入居者が自発的に「つき手、合いの手、丸め」などに参加したり、餅つきのお礼にとソーラン節を踊ったりと、普段見たことのない張り切った表情や行動に、職員はうれしさや驚きとともに入居者の計り知れない能力を実感し、今年も餅つき大会を計画している。看護職員の配置はないが、家族と話し合いながら、なるべく「その人らしく過ごせる工夫」を重ねたり、入居時白癬菌の感染で悩んでいた入居者のケアを薬剤師に相談し、チームで統一したケアで症状が改善するなど功を奏している。運営推進会議に地域区長の参加があったり、職員が交代で自治会活動に参加することで地域との交流も進み、花や野菜のおすそ分けがあったり、入居者が草取りをしていると「ついでにうちの草取りもしてもらえないか」と冗談を交えて気軽に声をかけてくれるようになった。そして、近隣住民から認知症の相談もあり、今後はさらに地域密着型サービスとしての貢献も期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	単に時系列で記録するのではなく、気付きを視点とした記録の仕方に変更し、日々のケアに反映できるように改善している。救急処置の研修会に参加するなど外部評価で取り上げられた改善課題に具体的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価を日々のケアの振り返りの良い機会として、全職員で意見が出せるように担当する項目の記入後、全員で話し合っている。外部評価は、第3者と今後の更なる改善点を確認する良い機会と捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4、5、6）
	運営推進会議は2ヵ月ごと、地域区長や市職員、入居者、入居者家族、管理者が参加し開催している。前回の外部評価の結果報告、制度改正の説明や意見交換を行い、議事録を整備している。家族からは、入居者の落ち着いた表情でホームの生活ぶりが推察できると意見が出ている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8）
	入居者の暮らしぶりや受診結果は、家族訪問時随時報告し、記録を整備している。意見箱も玄関に設置してあり、重要事項説明書に行政機関及びホームの相談苦情窓口を明記している。家族会は設けていないが、評判の良かった昨年末の餅つき大会を、今後家族の交流の場としても活かしたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入し、町内清掃や懇談会など参加している。職員が交代で参加することで、近隣住民から野菜や花のおすそ分けがあったり、職員と入居者が周辺の草取りをしていると労をねぎらってくれる。入居者が一人で出かけていると、職員に近隣住民が知らせてくれたり、住民家族の認知症の相談に乗ったりしている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・重要事項説明書に地域密着型サービスとしての運営を明記し、「利用者、介護従事者は17人の大家族」のホーム理念を、玄関に見えやすく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝礼や機会あるごとに理念について話している。理念に沿った介護計画が立案され、家庭的な環境の中でケアが実践されている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、懇談会や町内清掃に職員が交代で参加している。自治会の交流のお陰で近隣住民から野菜やお花のおすそ分けがあったり、職員や入居者で周辺の草取りをしていると労をねぎらってくれる。入居者が一人で出かけていると、近隣住民が知らせてくれたり、近隣住民の家族の認知症の相談に乗ったりしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のケアの振り返りの良い機会として、全職員で自己評価に取り組み全員の意見が出せるように留意した。外部評価は、第3者と今後の更なる改善点を確認する良い機会と捉えている。前回の外部評価の際の改善シートを活かし、見やすい記録の工夫や、救命処置の勉強会の参加など具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施要領が整備され、地域区長や市担当職員、入居者、家族、管理者が参加し2ヶ月ごとに行われている。外部評価の結果報告や入居者の状況報告、制度改正の説明、意見交換などを議事録に整備している。家族からは、「入居者の表情を見れば、ホームでの暮らしぶりは安心できる」との意見も出ている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の代表が地域包括支援センターに出向き、情報交換を行っている。入居者の担当ケースワーカーの訪問があり、意見交換を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度や地域権利擁護事業の研修に参加し、パンフレットを整備し、入居時説明が行われている。以前、入居者が成年後見制度を利用していたことがあり、利用を通じて一連の仕組みを理解している。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時、入居者の生活ぶりや定期受診の結果、職員の入・退職など報告しており、家族報告の記録も整備している。金銭管理台帳を整備し、家族への説明や捺印もある。月初めの利用料支払い際に、記載した出納帳のコピーを家族に手渡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関およびホームの相談苦情窓口を明記している。意見箱をも設置しているが、あまり投函がない。家族会の開催はないが昨年末好評だった餅つき大会を、今後家族の交流の場に活かしたいと考えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は入居者の特性を理解し、なるべく離職のないように、研修会の参加や資格習得を促すなど工夫している。今年は、職員の慶事で離職者が数名出たが、退職者も入居者に影響の出ないようにずらして退職したり、残った職員は入居者に不安のないように、ケアを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	ハローワークを活用し、年齢性別を問わず職員を採用している。就業規則が整備されており、雇用契約書も取り交わされている。休みの希望を取り入れて勤務表を作成し、年次有給休暇の取得で仕事もプライベートも充実できるよう配慮している。希望する資格習得の研修参加を支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	身体拘束および高齢者虐待防止マニュアルは整備されている。身体拘束を行わないことを重要事項説明書に明記している。人権研修に参加し、記録も整備してる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームに必要な研修項目に沿って、研修計画を作成している。職員の個々の経験や能力に合わせ、県社会福祉協議会が主催する研修に参加している。月刊誌を購入し認知症や家族の理解に努めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の居宅支援事業所にいたことから、隣接する他市のホームや地域の特別養護老人ホームとの交流があり、他のホームから入居の相談が来たり、相互交流を行っている。認知症の人と家族の会が主催する研修会に参加し、同業者の意見や家族の思いを聞く機会を得ている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れるまで家族も泊まってよいことを説明したり、落ち着くまで何度でも家族に来てもらうようにしている。入居者も家族への配慮が生まれ、落ち着いて生活を開始することができている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「僕ができるホームへのお返しは草取り」と熱心に草取りに励んでくれる入居者や、他の入居者の体調不良を、一緒になって心配する入居者もいる。そして、出勤してくるのを心待ちにしていたり、元気がないと励ましてくれる時、職員は支えられていると感じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールを用いて、情報を整理している。本人や家族から入居前の生活暦や今後の意向を聞き取り、日々の生活でのちょっとした言動や行動から意向を把握するため、日々の気付きを視点とした記録の仕方に変更している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで職員の気づいたことを、介護計画に活かせる仕組みがある。白癬菌のかゆみで困っていた入居者のフットケアについて薬剤師に相談し、足浴の方法や回数など、日々の生活に実施しやすいように具体的な介護計画が立案され、改善につなげている。担当者会議に家族の出席があり、記録も整備されている。介護計画に入居者の署名がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。入居者の状態の変化に合わせた介護が職員全体で共有できるようにカンファレンスを行っている。モニタリングで、入居者の変化を把握できており、見直した介護計画は入居者に説明し、同意の署名がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連法人のディサービスの行事に参加し、利用者と交流したり、いきつけの美容院へ個別に送迎している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた医院や病院に職員が付き添い受診したり、近隣の協力医療機関と連携し、随時診療が受けられるようにしている。家族にも受診結果を報告し、記録を整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、本人、家族から終末期のことについて聞き取りを行っている。急変時は家族と連携をとりながら、柔軟に対応している。看護職員がいないため、急変時は救急車で入院となることが多いため、管理者や職員は終末期にかかわれないことにジレンマを感じることがある。	○	現状の介護職員だけで行えることを明確にし、入居者や家族の意向確認書、終末期の指針の整備をお願いしたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者や家族に個人情報使用同意書に明記した守秘義務について説明し、同意捺印を得ている。入居者の尊厳に配慮した言葉かけが行われている。個人ファイルは入居者や来訪者の目に触れないように保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は好きなようにすごし、くつろいでいる。入居者と約束したことは守る様、優先順位を職員全員で決めている。職員は入居者のペースを理解し、無理のないように見守りながら寄り添うケアをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	つくしの袴とりやグリーンピースのさやむきなど、男女を問わず下ごしらえに参加している。出来上がった料理は各自のペースで摂取している。飲み込みの悪くなった入居者には個別にやわらかく煮込んだり、介助を行ったりして、なるべく口から食べるように取り組んでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男女に分けて一日おきに入浴日を設けている。毎日草取りに励んでいる入居者には個別に入浴できるように対応している。どうしても入浴を拒否する入居者には無理強いをせず、時間をずらして声をかけたり、入浴日をカレンダーに記入し心積もりができる様アプローチしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台拭き、草取りなど力量が発揮できることを支援している。昨年末の餅つき大会では、つき手や合いの手、丸めなど普段とは見せない「昔とった杵柄」を発揮し、職員のほうが驚かされている。餅つきのあと、お礼にとソーラン節の踊りの披露もあり、隠された能力の発揮をともに喜んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に散歩に出かけたり、スーパーの開店の安売りに入居者も協力をお願いしたり、近隣へ連れ出すようにしている。年間行事計画でも外出を行っている。外出傾向のある入居者には職員が見守りながら、思うように外出をさせている。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は掛けていない。外周が回廊型になっているためどこから出かけても、無理な見守りをせずに安全管理ができる。万一を想定し地域の交番や消防署に入居者の顔写真を持参し理解と協力を依頼している。入居者の急変があり、救急車を要請した際、救急車内に写真が積み込まれてあるのを見て、地域の協力を痛感したことがある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回実施しており、非常災害時の緊急連絡網を作成している。救急蘇生の訓練に全員が参加できる様に研修計画を立てている。非常災害時マニュアルが整備されており、火災が発生したことを想定し、最低持ち出しできる飲料水や食品などを準備している。	○	自然災害の水害等を想定し、3日程度の備蓄をお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が以前勤務していた介護老人福祉施設の管理栄養士からメニューをもらい、一日に必要な摂取カロリーや栄養バランスを配慮した食事つくりをしている。入居者の一日の摂取カロリー、水分摂取量、食事量を把握し、記録を整備している。毎月の体重測定も行われている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に大きな看板が設置され、プランターの花々が飾られている。玄関から続く段差のないリビングには、食堂や居間、台所があり、周囲の壁等に入居者の力量が発揮された笑顔あふれる写真を掲示している。コーナーに置かれているソファーでは新聞を読んだり、テレビを見たり、畳みのスペースで昼食後横になる入居者もいてそれぞれが心地よくすごしている。リビングの奥の廊下の左右に居室やトイレ、浴室がある、庭は日本庭園風に槙などの庭木が植えられ、居室から気軽に出て行けるようになっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みで入り口の引き戸に表札や暖簾を掛けたり、目印の花が飾ってある。整理タンスやベッドはホームの備品であるが、各居室には馴染みの家具を持ち込まれ、入居者が暮らしやすい空間を作っている。洋室と和室があり入居時選択できる。		